

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

令和2年2月14日
帯広市教育委員会

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の本市全体の状況については、8種目（中学校は持久走・20mシャトルランのいずれかを選択するため9種目）の体力テストの成績を得点化したものの総和である体力合計点でみると、小・中学校の男女いずれも全国平均を下回る結果となりました。

一方、種目別では、小学校8種目中、男子で3種目（前年度比同）（握力、立ち幅とび、ソフトボール投げ）、女子で5種目（前年度比－1種目）（握力、上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げ）が全国平均を上回りました。

また、中学校では9種目中、男子で6種目（前年度比＋3種目）（握力、長座体前屈、持久走、20mシャトルラン、立ち幅とび、ハンドボール投げ）、女子で2種目（前年度比＋2種目）（長座体前屈、立ち幅とび）が全国平均を上回りました。

さらに、今年度、全国を下回った種目のうち、小学校男子は1種目（50m走）で、小学校女子は2種目（20mシャトルラン、50m走）で、中学校男子は1種目（50m走）で、中学校女子は4種目（持久走、20mシャトルラン、50m走、ハンドボール投げ）で全国との差が縮まりました。

このことは、平成20年度から始まった全国的な調査や、平成22年度から本市が独自に実施している「帯広市体力・運動能力調査」の結果を踏まえて、全校あげて児童生徒の体力・運動能力の向上に努めてきたことや、家庭と連携した生活習慣や食習慣の改善の取組などが、一定の成果をあげてきているものと考えております。

本調査の結果につきましては、児童生徒の体型や肥満度などのデータもあり、公表にあたっては十分な配慮が必要であります。が、学力に関する調査の結果同様に「地域の学校教育の状況に関する説明責任」「学校・家庭・地域・行政が連携して学校教育と家庭教育、地域の教育力の相互努力による体力・運動能力向上の取組の一層の充実」という観点から、各種目の記録、体力合計点、全国平均を50とした場合の偏差値であるT得点、各種質問紙の結果については、数値で公表しております。

しかしながら、体力や運動能力等に関する調査では、地域や学校によって、例えば、

- ① 実施時期に4ヶ月ほどの幅があること（※本市の実態では4月～7月）
- ② 実施の場所の条件が一定でないこと（体育館、グラウンド、廊下等）
- ③ 計測器具や、その器具を扱う指導者の力量や技術が異なること
- ④ 参加する児童生徒の履物や服装が一定でないこと

など、学力に関する調査以上に「実施上の条件の差異」が見られることから、単に数値だけでは判断できないことも考慮する必要があると考えております。

帯広市教育委員会といたしましては、引き続き各学校における「1校1実践」の取組や、適切な運動量を確保する体育・保健体育科等の授業改善をすすめるとともに、家庭や地域、関係機関と連携を図りながら、児童生徒の運動や健康への関心を高めてまいります。

また、今後も帯広市教育委員会のホームページ上の体力向上のページと、市内小中学校のホームページ上の体力向上のページをリンクさせ、各学校の調査結果の概要をお知らせするとともに、市内の体力・運動能力等向上の取組を、総合的にお知らせしてまいります。